

「学校における金融教育の 重要性について」

1. 金融広報中央委員会とは
2. 金融教育とは
3. 金融教育の必要性・重要性
4. 学校で金融教育を進めるうえで
(1)前提 (2)材料 (3)方法

2011年1月12日
金融広報中央委員会事務局
金融教育プラザ企画役 竹内俊久
E-mail:toshihisa.takeuchi@boj.or.jp

【1. 金融広報中央委員会とは】

生い立ち

- 終戦直後：“救国貯蓄運動”（全国規模）
 - －インフレ収束。
 - －経済復興へ。国民の自主的活動に。
- 昭和25年：「貯蓄推進委員会」（都道府県）
27年：「 // 中央委員会」（中央）
- 昭和63年：「貯蓄広報中央委員会」
- 平成13年：「金融広報中央委員会」
 - －時代とともに、世の中のニーズや実態は変化。
変化に合わせて。

委員、事務局など

- 委員
 - － 金融経済団体、報道機関、消費者団体等の代表者、学識経験者、日本銀行副総裁などから成る
- 事務局
 - － 日本銀行の「情報サービス局」内に設置
- 愛称＝「知るぽると」
- ホームページ＝<http://www.shiruporuto.jp/>

特性

①中立・公正

- 官・民、消費者、メディアなど
- オールジャパン

②全国的＋“草の根”

- 中央(1)＋都道府県ごとの委員会(47)
- 金融広報アドバイザー

活動

- 中立・公正な立場から、以下を全国的に展開。
 - ① 正確でわかりやすい
「金融経済情報の提供」
 - ② 一人ひとりが、賢い消費者として自立するための
「金融経済学習の支援」
- 平成17年度を“**金融教育元年**”と位置付け。金融教育に取り組んでいます(内容後述)。

【2. 金融教育とは】

「金融教育」とは

—当委員会では、広い意味で使っています。

- 「**お金にかかわる幅広い教育**」
- 「**お金や金融のさまざまな働きを理解し、**
それを通じて自分の暮らしや社会について深く考え、
自分の生き方や価値観を磨きながら、
より豊かな生活やよりよい社会づくりに向けて、
主体的に行動できる態度を養う **教育**」

「金融教育」＝“難しい”、との印象？

- 「金融教育」＝“難しい”、との印象がある、との声がよく聞かれます。



なぜ？



- 「金融」との言葉が難しいから
とくに「融」の字や意味が難しいから
では？

「金融」とは？ 「融」とは？

- 「金融」＝お金の融通をすること
 - では、「融通」とは？ 結局、「融」の意味が問題。
- 「融」の意味は？
 - 「融」の字は、小学校では習わない。複雑な形。意味も不明。
 - ⇒ 難しい印象の一因？

「融」とは？

- 「**鬲**」=かまど(象形文字)
- 「虫」は虫(稀に、「チュー」という音との説も)
- 「融」=かまどから虫がはい出る
かまどから蒸気が立ちのぼる
→**通る**
 - 「融点」=固体が熱で溶けて液体となる温度
 - 「融和」=心がとけあう、通い合う
 - 「融通」≡通通

「金融」教育

- 「金融」
≡ お金の「動き」(流れ、やりとり、貸借、働き)
- 「金融」教育
≡ お金の動きに関する教育
– 「金銭」教育に比べ、お金の“動き”のニュアンス。

「金融教育」(当委員会)

- 「金融」教育 ≡ お金の動きに関する教育
- 当委員会の「金融教育」(広い意味で使用)
＝「お金にかかわる幅広い教育」
＝「お金や金融のさまざまな働きを理解し、
それを通じて自分の暮らしや社会について深く考え、
自分の生き方や価値観を磨きながら、
より豊かな生活やよりよい社会づくりに向けて、
主体的に行動できる態度を養う 教育」

「金融教育」の4分野

- 「金融教育」＝「お金にかかわる幅広い教育」を、4分野に分けています（当委員会）

- | | |
|------------|--------|
| ①生活設計・家計管理 | に関する分野 |
| ②金融・経済のしくみ | に関する分野 |
| ③消費生活 | に関する分野 |
| ④キャリア教育 | に関する分野 |

【3. 「金融教育」の必要性・重要性】

- ①「金融教育」の必要性・重要性
- ②家庭における「金融教育」の必要性・重要性
- ③学校における「金融教育」の必要性・重要性
- ④学校における「金融教育」についての
アンケート調査の結果

①「金融教育」の必要性・重要性

Q1:なぜ、「金融教育」が必要(重要)か？

- 「生きていく」と「お金」とは、切り離せない
- お金で失敗すると、人生への痛手が大きい
- 世の中の変化が大きくなっている
 - 金融経済の変化・変動が大きい
 - 自由化(新商品、複雑化)と自己責任(判断力、意思決定)
- 「生きる力」に結びつく＝積極的な意味

Q2:なぜ、「教育」が必要か？

- “教えなくても身につくこと” では **ない**
 - (例) ほしいものは何でも買ってもらえる子ども
 - 教えないうちに、悪いクセがついてしまう
 - ⇒直すのは難しい
 - ⇒人生の初期から、教える必要

『生きる力』

- 金融教育は、『生きる力』=人生を「生き抜く」うえで不可欠の力を養うもの

人生の初期から、ていねいに教える

+

少しずつ、レベルアップしていく

+

生徒に応じて

②家庭における「金融教育」 の必要性・重要性

- 「お金」にかかわること
= 人生観(生き方)、価値観、態度 と一体
- 人生観(生き方)、価値観、態度 は、
家族、家庭でこそ、教えるべき

③学校における「金融教育」 の必要性・重要性

- 金融教育の内容＝幅広い
 - － 生活習慣や態度、価値観（人生観、考え方）から技術的な知識まで
- 学校の長所
 - － 小・中（義務教育）＝全員。高校＝進学率高い
 - － 学ぶことに集中。専門の施設・教員。体系的。
 - － 家庭より広い“社会”（先生、友達、地域の人、関係機関）

家庭との関係

- 家庭との「分担」
 - 学校では知識を中心に教えるべき、など
- 家庭の「補完」や「代替」
 - 生活習慣・態度に関する部分
 - ～学校でも長い時間を過ごす
 - 価値観(人生観、考え方)に関する部分(難問)
 - ～教えていない家庭も多い? 学校で補う面
- 家庭との「協力」(とくに価値観に関する部分)
- 生徒にとって最適な教育
 - 生徒は様々。その家庭も様々。先生には見える。

④アンケート(1/3)

Q:「あなたは、学校教育(小・中・高)の中で、金融に関する教育を受けましたか」

- 「受けた」=4%
- 「受けたと思うが、よく覚えていない」=20%
- 「ほとんど受けていないと思う」=75%

『金融に関する消費者アンケート調査』(平成20年、当委員会実施)

小数点以下を四捨五入

アンケート(2/3)

Q:「最近の学校における金融に関する教育について、どのようにお考えですか」

- 「もっと積極的に取り組んでほしい」= 58%
- 「現状程度でよい」= 30%
- 「現状ほど、積極的に取り組む必要はない」= 3%
- 「学校では、金融に関する教育は行わない方がよい」= 4%

アンケート(3/3)

Q:「学校における金融に関する教育について、不十分だったと思われることがありますか」

- ① 基礎的な金融・経済のしくみの理解
- ② 老後の生活を支えるしくみの理解(年金等)
- ③ 金融商品を理解し、選択する能力
- ④ お金の大切さの理解
- ⑤ お金の計画的な使い方の理解
- ⑥ 金融トラブルにあわないための留意点

【4.学校で金融教育を進めるうえで】

- (1)前提:生徒も先生も忙しい
- (2)材料:当委員会が豊富な材料を提供
 - ×すべてやる ○選ぶ。参考にする。
- (3)方法:身につけさせたい能力を定める。
短時間で、効果的に。

4-1(1):前提

生徒も先生も、忙しい

- 学ぶべきこと／教えるべきこと＝多い
- 受験
- 「〇〇教育」が花盛り

- 学習指導要領
 - 教育の内容は明示。方法論に踏み込まず。
 - ⇒各学校が創意工夫を活かした特色ある教育

(参考①) 指導要領のワード: 小学校

- 地域の人々の生産や販売の工夫(3・4)
国民生活、生産・価格・費用(5)
- 物や金銭の大切さ、計画的な使い方(5・6)
身の回りの物の選び方、買い方、適切な購入
(5・6)

(参考②) 指導要領のワード: 中学校

- 対立と合意、効率と公正
契約の重要性、守る意義、個人の責任
金融の仕組みや働き
市場における価格の決めり方や資源の配分
市場における取引＝貨幣を通して行われる
消費者の自立の支援
- 消費者の基本的な権利と責任
家庭生活と消費

(参考③) 指導要領のワード: 高校

- 経済活動の意義
市場経済の機能と限界
金融の仕組みと働き、金融の環境変化
- 生涯を見通した生活経済の管理や計画
消費者の自立と支援、権利と責任の自覚
多重債務等の問題

指導要領→材料→金融教育の実践

- 「指導要領」と、「金融教育の実践」
- 両者の間を、結ぶものが必要



- 当委員会では、豊富な「材料」を用意しています

4－(2)：材料

- ①『はじめての金融教育』(実践事例)
- ②『金融教育プログラム』(理論＋指導計画例)
- ③『金融教育ガイドブック』(実践事例)
- ④『これであなともひとり立ち』(テキスト)
『きみはリッチ?』(テキスト)

①『はじめての金融教育』

—実践事例集（平成21年）

1. 入門ガイド

- 小＝1、中＝2（社会、家庭）の実践事例。
- 先生へのインタビュー（着想→実践→振り返り）

2. 実践事例集

- 幼＝1、小＝7、中＝5、高＝5の実践事例。

3. 資料

- 「年間指導計画」の例（幼、小、中）

②『金融教育プログラム』

—理論＋指導計画例（平成19年）

1. 金融教育のねらいと基本的性格
2. 目標と内容 年齢層別の金融教育内容（P30～33）
3. 関係機関などの活動
4. 指導計画の作成と実施
5. 小学校における金融教育 科目別の指導計画例7
6. 中学校における金融教育 科目別の指導計画例7
7. 高等学校における金融教育 科目別の指導計画例8

③『金融教育ガイドブック』

—実践事例(平成17年)

- 4分野の別に、実践事例**45**

- 「生活設計・家計管理」: 幼～高まで**13**

- 「経済・金融のしくみ」 : 幼～高まで**15**

- 「消費生活」 : 幼～高まで **9**

- 「キャリア教育」 : 幼～高まで **8**

実践事例の例：小学校

- お店やさんごっこ(幼稚園)
- 買い物名人になろう
- お金は大切に使おう
- おこづかいは必要か。おこづかい帳をつける
- お店を開く。農作物を作り販売する
- リサイクル活動
- まかせて、おつかい(特別支援学級)

実践事例の例：中学校

- 家計のシミュレーション
- 企業(会社)をつくる、起業体験
- お金について調べる
- 仕事と社会のかかわりを探る
- 金融商品を知り、選択する眼を持つ
- 携帯電話、インターネットでの金銭トラブル
- 自他の権利

実践事例の例：高等学校

- ライフプランを立ててみる
- 収支バランスを考えた人生設計を考える
- 自分のキャリアへの投資を考える
- クルマの“窓”から経済をのぞいてみる
- 自主開発商品を販売する
- 社会に貢献する会社をつくる
- オサイフケータイやコンビニと消費生活
- 金融政策のロールプレイ

④ -1:『これであなただもひとり立ち』

- 高校生をはじめとする、若い世代の人むけ
- 「ひとり立ち」のために必要な、経済生活上の基礎知識を身につける
- 「生徒用」のテキストと、「指導書」(先生など)

私の命を育んだお金はいくら？

ひとり暮らしの生活費

カード社会の歩き方

おいしい話にご用心

金利と法律に強くなる

悪質商法とたたかう

④ -2:『きみはリッチ?』

- 「多重債務に陥らないために」(副題)

【テーマの例】

カード クレジット 多重債務者 利息

契約 保証人 ヤミ金融

多重債務に陥らないために

自己破産

それ以外の教材・資料

- こづかい帳(おこづかいきろく)
- マンガ『100万円 あったらどうする?』
- 『10代のためのマネー入門』
- 『ビギナーズのためのファイナンス入門』
- 広報誌「くらし塾 きんゆう塾」(年4回)
 - 各資料は、知るぽるとHPにも掲載。
 - 冊子は、ホームページにある“刊行物の請求書”で、当委員会にご請求ください。

4－(3)：方法

- ① 2つの方向性。
- ② 題材は何でも。時間は短くても。
- ③ 金融広報委員会の活用

① 2つの方向性

A: 「実践事例」をざっと眺め、その中から、良い
と思うものを選んで、やってみる

— 始めやすい

B: 自校の生徒に身につけさせたい能力
→ 役立つ実践事例を探す。なければ作る。

⇒ 地域の実情に応じた教育

⇒ 生徒の実情に応じた教育

Aも、実は、「身につけさせたい能力⇒題材」

②題材は何でも(1例目)

『イソップ物語』(1時間で、深く学べます)

冬、アリのところへ、お腹が空いて死にそうになったアリがやってきました。

(キリギリス) 食べ物をわけてくれませんか？

(アリ) あなたは、なぜ、夏の間には食べ物を集めておかなかったのですか？

(キリギリス) 時間がなかったんです。ずっと歌を歌ってましたから

(アリ) 夏の間、歌ったなら、冬の間、踊りなさい。

(イソップ)

Q1: アリはギリギリに食べ物をあげるべき？

(参考) 日本の絵本では

食べ物を「あげない」:「あげる」:「不明」

≒ 2:1:1

Q2: あなたがギリギリだったらどうしますか？

Q3: あなたがアリなら、食べ物をあげますか？

—「子供がアリの冷淡さに共感すると有害」(誰?)

(イソップ)

Q4: アリとアリなら？

— 病気のアリ→老いたアリ→元々働けないアリ

Q5: 女王アリ(政府)に、分配を任せる？

Q5: 人と人なら？

Q6: キリギリスは遊んでいたのか？ (音楽活動?)

— キリギリスが歌い、アリが食べ物をあげる(どこの映画?)

Q7: 食べ物を貰ったキリギリスは、次の夏は、働く？

(イソップ)

- 1時間で重要概念を学び、考えることが可能
 - 働くこと
 - 自助努力
 - 貯蓄
 - 働くことと、その対価
 - 生産と分配
 - 政府の役割
 - モラルハザード

題材は何でも(2例目)

- 『金利(複利)』 ~100円がいくらになるか？

金利	10年後	20年後
1%	111円	123円
3%	135円	181円
5%	163円	266円
10%	260円	673円
20%	673円	3834円

- グラフにすると、複利の威力が一目瞭然。
- 「数学の歴史上、複利は最大の発明」(誰?)

72の法則

「72÷金利」≒「2倍になる年数」

– ここでの金利は、複利の年利です

- 金利 3% → 24年 で2倍になる
- 金利10% → 7.2年で2倍になる
- 金利20% → 3.6年で2倍になる
- 20年で2倍にする → 金利3.6% で運用
- 10年で2倍にする → 金利7.2% で運用
- 5年で2倍にする → 金利14.4%で運用

複利を敵にするか、味方にするか

題材は何でも(3例目)

『運』

Q:「自分は運がいい」と思いますか？

“コイン投げゲーム”を試してみる。

- コインを10回投げ、表をたくさん出した人が勝ち
- 10回では？ また10回では？ さらに10回。
- 最初の10回でクラスの中でたくさん「表」を出した人は、その後も「表」を多く出せるか？

題材は何でも(4例目)

『アインシュタインと秘書のお話』

- アインシュタインは秘書よりタイプが速い
- でも、アインシュタインはタイプは秘書に任せ、自分は物理学の研究に集中する方がよい。みんながハッピーになれる(アインシュタイン、秘書、社会全体)。
- 比較優位の考え方。
- それぞれの人が協力し、自分なりに得意な仕事に取り組むのがよい。⇒人生観にも影響。

何を学ぶために？（4つの例では）

- 働くことの重要性
- 欲望をコントロールする（支出を抑える）
- お金を貯める重要性
- 積み重ねの重要性
- 複利の威力の理解
- 分配、政府の役割
- 運の良さに期待しない
- 人と協力し、得意を活かす重要性

先生の経験・技術

- 生徒は何を身につけるべきか
 - 生徒の実情
- 関心を持たせる進め方
- 家庭との間合い
- 他の先生との連携
- 地域の人・外部の人の活用、資料の紹介
- 「ゼロ⇒少しやる」の効果大(限界効用)
- 記憶に残る

③金融広報委員会の活用

- 教材（冊子、ホームページ、ビデオ／DVD）
- 研究校
- 教員対象セミナー
- 金融教育公開授業
- 金融教育フェスティバル
- 作文・小論文コンクール（中、高、教員等）
- 講師派遣（金融広報アドバイザーほか）
ー ゲスト・ティーチャー。

ありがとうございました。